

日本言語技術教育学会 事務局通信 第47号

2017年12月20日（水）

第27回愛知大会役員

事務局長	開田晃央
事務局長代理	高木輝夫・安暁彦
事務局次長	遠藤直美・飯村真由美
会計	斉藤美智子・中村麻里那
書記	飯村真由美・坂本要
事務局	川又智子・野村仁・比佐中・高橋勲・京野真樹・大淵康孝・鈴木友梨香
大会実行委員長	渡邊靖之

師走の候、学会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

去る2017年7月29日（土）に、名進研学園・名進研小学校において日本言語技術教育学会第27回大会（愛知大会）が開催されました。「言語技術が見える授業づくり—『スイミー』『すがたをかえる大豆』『短歌の学習』で身に付けさせる言語技術—」をテーマとして、本大会は実施されました。午前の部では「スイミー」「すがたをかえる大豆」「伝統的な言語文化『短歌に親しもう』」の三つの模擬授業と「ワークショップ『音読・語りの技術』」、午後の部では「提案授業の検討」という日程で行われました。157名の参加者を迎え、熱心な討議が行われました。

昨年度から本学会のホームページを大幅にリニューアルしました。

本学会のホームページのアドレスは次のとおりです。ご活用ください。

<http://nggkg.net/>

ここでは次回28回大会（静岡大会）案内などを「事務局通信」としてお送りいたします。

1. 大内善一会長からのメッセージ

日本言語技術教育学会・会員の皆様

日本言語技術教育学会会長・大内善一

第27回愛知大会も皆様のご参加により盛会のうちに開催することが出来ました。

愛知大会のアンケートへのご協力を頂きありがとうございました。

ご参加下さった皆様には心から感謝申し上げます。

近年、「グローバル・スタンダード」等といった言葉が幅をきかせております。このような動向に便乗して教育の現場でも全国的に、授業の進め方を「スタンダード」（標準）化しようとする傾向が見られます。実に愚かな由々しき事態です。

授業を「スタンダード」化すること、統一規格化することは、教師の思考停止を強制することに他ならないからです。授業の方法・技術は様々で多様なものであるべきです。あの手この手で学習者の思考活動を活発なものにしていくことこそが望ましい授業の在り方です。

したがって、授業を標準化し統一規格化していくことなどもってのほかです。

勿論、特定の学習指導案などによって授業の「マニュアル」化を行っていかうとする企みなども論外であります。本学会は思考停止学会ではありません。

教師の授業技倆は永続的に伸展していくべきものです。そのために、私たちは自らの授業技術に絶えざる検討・修正を行っていかねばなりません。様々な方法・技術の中から学習者の実態と場に応じて適切な方法・技術を選択し駆使していくべきです。

したがって、言語技術教育は授業上達論を射程に収めていかねばなりません。

言語技術教育とは、教育のあらゆる場面と状況に応じて、教師と学習者が臨機応変で自在な言葉遣い出来るようにしていくことです。端的に言えば、教師と学習者の言葉遣いの精度を高めていくことです。そうすることで、国語教育はもとよりあらゆる授業の向上発展に寄与していくことを目的としています。

2. 27回大会の日程

8:45 受付開始

9:15 開場・諸連絡

全体司会

開田晃央(事務局長)

9:20 開会の挨拶

大内善一(学会会長)

第一部 授業公開

授業Ⅰ 文学「スイミー」(光村2年上)

9:35 ~10:05(30分)

岩下 修(愛知・名進研小学校)

児童 名進研小学校2年生

授業Ⅱ 説明文「すがたをかえる大豆」(光村3年下)

10:15 ~10:45(30分)

西山悦子(東京・東泉小学校)

児童 名進研小学校3年生

授業Ⅲ 伝統的な言語文化「短歌に親しもう」

10:55 ~11:25(30分)

増田 泉(東京・砧南小学校)

児童 名進研小学校4年生

11:25 諸連絡(昼食場所・総会案内等)・昼休み(多目的室), 理事会(会議室)

12:25 学会総会(体育館)(活動報告, 会計報告, 予算案の審議等)

第二部 ワークショップ

音読・語りの技術(体育館) 12:45~13:15(30分)

〈音読〉柳谷直明(北海道・妹背牛小学校) 岩下 修(愛知・名進研小学校)

〈語り〉野口芳宏(植草学園名誉教授)

第三部 提案授業の検討

検討Ⅰ 文 学 13:25~14:05(40分)

司 会 柳谷直明(北海道・妹背牛小学校) 授業者 岩下 修(愛知・名進研小学校)

登壇者 佐藤康子(青森明の星短期大学) 高橋秀一(元山形県・広幡小学校)

長谷川祥子(青山学院大学)

検討Ⅱ 説明文 14:15~14:55(40分)

司 会 市毛勝雄(埼玉大学名誉教授) 授業者 西山悦子(東京・東泉小学校)

登壇者 大内善一(茨城大学名誉教授) 富樫忠浩(北海道・早来小学校)

國府田祐子(松本大学)

検討Ⅲ 伝統的な言語文化 15:05~15:45(40分)

司 会 野口芳宏(植草学園名誉教授) 授業者 増田 泉(東京・砧南小学校)

登壇者 篠原京子(常葉大学) 大貫眞弘(早稲田大学)

渡邊洋子(常磐大学)

15:50 閉会の挨拶

15:55 諸連絡, 懇親会案内他(懇親会会場へバスで移動)

16:40~18:00 懇親会(別会場にて開催)

3. 第27回総会

大会の中で総会がありました。そこでご承認された決算と予算を掲載します。

日本言語技術教育学会

2017年度 決算報告

2017年7月29日(土)

日本言語技術教育学会事務局長 開田晃央
(学会会計 齊藤美智子・中村麻里那)

「2017年度」は第26回大会当日の2016年8月5日から2017年7月29日までです。今回の決算には第26回大会の参加費、経費等が含まれています。そのかわりに第27回大会の参加費、経費等は除いてあります。第27回大会参加費、経費等は来年度の決算で報告致します。

I 収入	計	2,086,487円
(1) 前年度よりの繰越金		1,305,987円
(2) 第26回東京大会参加費		746,000円
4000円(当日会員参加費) × 59人 = 236,000円		
4500円(当日非会員参加費) × 64人 = 288,000円		
2000円(学生参加費) × 15人 = 30,000円		
4000円(懇親会費) × 48人 = 192,000円		
(3) 新規会員学会費		30,000円
3000円 × 10人 = 30,000円		
(4) 『言語技術教育』24号・25号・26号頒布代		4,500円
500円 × 9冊 = 4,500円		
II 支出	計	587,338円
(1) 第26回東京大会経費		481,683円
①大会運営費		165,879円
②懇親会費		171,000円
③『言語技術教育』第26号印刷代		144,804円
(2) 教科書著作権料		3,888円
(3) 文具代・コピー代等		14,254円
(4) 通信費(宅急便代・葉書代等)		1,244円
(5) 会議費(含、9/3理事会運営費用)		46,269円
III 繰越金	計	1,499,149円

収入計:2,086,487円－支出計:587,338円＝1,499,149円

以上

2018年度 予算案

2017年7月29日(土)
 日本語技術教育学会事務局長 開田晃央
 (学会会計 齊藤美智子・中村麻里那)

「2018年度」は本日第27回大会当日の2017年7月29日から来年度第28回大会の前日までです。今回の予算には第27回大会の参加費、経費等が含まれています。そのかわりに第28回大会の参加費、経費等は除いてあります。第28回大会参加費、経費等は来年度の予算に組み入れます。

I 収入	計	2, 374, 149円
(1) 前年度よりの繰越金		1, 499, 149円
(2) 第27回大会参加費(見込み)		845, 000円
4000円(当日会員参加費)	× 50人 =	200,000円
4000円(当日非会員事前申込参加費)	× 50人 =	200,000円
4500円(当日非会員参加費)	× 50人 =	225,000円
2000円(学生参加費)	× 20人 =	40,000円
4500円(懇親会費)	× 40人 =	180,000円
(3) 新規会員学会費		30, 000円
3000円 × 10人 =		30,000円

II 支出	計	2, 374, 149円
(1) 第27回大会経費		600, 000円
(2) 文具代		50, 000円
(3) 通信費(理事会・事務局通信、その他)		130, 000円
(4) 会議費(理事会、事務局会議等)		200, 000円
(5) 諸雑費(印刷費、アルバイト代等)		130, 000円
(6) 予備費		1, 264, 149円

以上

Ⅱ 『言語技術教育』 第27号

第27回大会に合わせて『言語技術教育』第27号を冊子として作成しました。その目次を紹介します。ご覧になりたい方は、第28回大会（静岡大会）にて販売いたします。（500円の予定）

はじめに

大内善一

【特集1】 わたしの考える「言語技術教育論」

- ◆言語技術教育は修辭的思考の陶冶を視野に入れるべきである
- ◆わたしの考える「言語技術教育論」—指導経験の理論化を目指す

大内善一
市毛勝雄

◆言語技術教育としての一つの典型授業の開発～「読むこと」領域における音読指導を通して～

柳谷直明
長谷川祥子
篠原京子
國府田祐子
富樫忠浩

- ◆文章の性質を二つに分ける

- ◆「言語活動」から「言語技術」へ

- ◆論理的文章の「読む・書く」指導を系統的な技術に

- ◆「言語技術教育」は子どもたちの未来に貢献する

第一部前半 模擬授業と提案

文学教材「スイミー」

- ◆シンプルで深い学びを成立させる読解の技術（指導案）
- ◆シンプルで深い学びを成立させる読解システム（提案）

岩下 修
同

第一部後半 提案授業に期待すること

- ◆文と挿絵・音読の相互作用で読む指導
- ◆みんなと一緒に声に出して読む楽しさ
- ◆教材のテキスト形式と資質・能力育成—「スイミー」を例に—
- ◆教材全体を通して身に付けさせる言語技術を明確に
- ◆文学的な文章の指導事項と言語技術との関連性
- ◆「読む」ために、低学年から言語技術の基礎を丁寧に
- ◆スイミーの学習指導
- ◆論点のはっきりした授業を期待したい
- ◆提案授業に期待すること
- ◆言語技術を指導し、文学の価値を学ばせる
- ◆描写の読み方の〈習得〉と〈活用〉の姿が見られる授業提案
- ◆「スイミー」で物語を読む技術を指導する
- ◆想像を広げて読む「スイミー」

佐藤康子
高橋秀一
佐藤洋一
今井 東
光野公司郎
渡邊洋子
岩崎 淳
大貫眞弘
開田晃央
富樫忠浩
吉川和良
小川智勢子
中村麻里那

第二部前半 模擬授業と提案

説明文教材「すがたをかえる大豆」

- ◆論理的文章の読み方を身に付けさせるための言語技術(指導案)
- ◆論理的文章を読む力は、基本事項の繰り返しで身に付く(提案)

西山悦子
同

第二部後半 提案授業に期待すること

- ◆内容理解と言語技術の調和を
- ◆主体的・対話的で楽しい習得の授業
- ◆提案授業に期待すること
- ◆子どもが構成の概念を学ぶロールモデル
- ◆論理的文章の読み方の言語技術を期待する
- ◆子どもの思いに寄り添ってこそ生きる言語技術
- ◆論理的文章の読み書きの力がつく授業を期待する
- ◆「言語技術の三層」が明確になった授業展開を
- ◆力を付けるアクティブラーニングを
- ◆提案授業に期待すること～指導事項の具現化～
- ◆説明的な文章における確かな言語技術表出への期待
- ◆提案授業に期待すること
- ◆力が付いたという自覚を目指して

照井孝司
兵藤伸彦
太田 等
京野真樹
岩井信康
遠藤直美
大木真智子
飯村真由美
川又智子
渥美清孝
安 暁彦
比佐 中
原 暁子

第三部前半 模擬授業と提案

伝統的な言語文化に親しむための言語技術

- ◆「伝統的な言語文化を楽しむ」言語技術を提案する(指導案)
- ◆「伝統的な言語文化を楽しむ」言語技術を提案する(提案)

「音読・好きな短歌を選ぶ」
増田 泉
同

第三部後半 模擬授業に期待すること

- ◆明確な発問・学習課題の設定
- ◆短歌・俳句の音読指導に必要な「教師の言語技術」は何か
- ◆「伝統的な言語文化」の授業に期待すること
- ◆言葉のリズムを体感できる工夫を
- ◆短歌に親しむ学習活動(音読・描写・感想や創作)
- ◆児童を「短歌好き」にさせる技術を期待する
- ◆伝統的な言語文化の学習に期待すること
- ◆「深く人間的な学び」につながる言語技術教育
- ◆教師の言語技術が見える授業を
- ◆小中九年間の系統性を意識した「伝統的な言語文化」の授業づくりを
- ◆感動の中心を捉えるための言語技術
- ◆言語文化の継承に向けて
- ◆表現の形式を問い、表現の内容を創造する授業を

井上義弘
高橋 勲
岩上賀子
高木輝夫
瀧沢葉子
渡辺真由美
野村 仁
有田弘樹
大淵康孝
徳山大輔
斉藤美智子
坂本 要
平河 力

【特集2】 言語技術教育・当面の課題

- ◆学会レベルで学習用語を明確化・一般化する
- ◆「学会」の吟味～二つのアポリア(「学習指導要領」と「国家」)にも触れながら～
- ◆言語技術教育・当面の課題

鶴田清司
望月善次
野口芳宏

第26回大会の報告

- ◆第26回大会(東京大会)の概要報告

開田晃央

編集後記

開田晃央

※第1号～第21号は明治図書から刊行されております。そちらもお読みください。

- 『言語技術教育 第1号』特集 言語技術教育でどんな力がつくか (1580円)
- 『言語技術教育 第2号』特集 言語技術教育の観点から新教科書を点検する (1794円)
- 『言語技術教育 第3号』特集 言語技術教育としての『話し方・聞き方』指導を構想する
(1794円)
- 『言語技術教育 第4号』特集 この文学教材でこの言語技術を教える (2314円)
- 『言語技術教育 第5号』特集 説明的文章を使ってどんな言語技術教育を身につけさせるか
(1682円)
- 『言語技術教育 第6号』特集 論理的思考力を鍛える作文技術 (1995円)
- 『言語技術教育 第7号』特集 討論の授業がどんな言語技術教育を身につけさせるか
(1890円)
- 『言語技術教育 第8号』特集 音声言語指導の教材開発・授業開発 (2058円)
- 『言語技術教育 第9号』特集 総合的学習を支える言語技術とは何か (2205円)
- 『言語技術教育 第10号』特集 総合的学習と「読み・書き」の技術 (2058円)
- 『言語技術教育 第11号』特集 到達度・絶対評価の基準としての言語技術 (1953円)
- 『言語技術教育 第12号』特集 「絶対評価」で問われる基礎学力と結果責任 (1995円)
- 『言語技術教育 第13号』特集 二十一世紀に求められる言語技術とは何か(1760円)
- 『言語技術教育 第14号』特集 「この言語技術」を「この授業」で身につける(1890円)
- 『言語技術教育 第15号』特集 「読解力の低下」問題と国語科授業の改革(1953円)
- 『言語技術教育 第16号』特集 国語学力を育てる言語技術教育(1953円)
- 『言語技術教育 第17号』特集 論理的な「言語力」を育てる国語科の授業(1953円)
- 『言語技術教育 第18号』特集 「伝統的な言語文化」を活かす言語技術(1680円)
- 『言語技術教育 第19号』特集 「伝統的な言語文化」を深める授業力とは(1890円)
- 『言語技術教育 第20号』特集 「この言語技術」で思考力・表現力が高まる(1953円)
- 『言語技術教育 第21号』特集 新教材・伝統的な言語文化をどう授業化するか(1890円)
- 『言語技術教育 第22号』特集 単元を貫く言語技術を解明する (1890円)
- 『言語技術教育 第23号』特集 言語技術が見える授業づくり
— 学力向上に役立つ言語技術 — (500円)
- 『言語技術教育 第24号』特集 「文学教材の授業で身につけさせる言語技術」とは何か
— 「ごんぎつね」を例に — (500円)
- 『言語技術教育 第25号』特集 言語技術が見える授業づくり—「大造じいさんとがん」
「和の文化を受けつぐ—和菓子やさぐる—」で身につける言語技術— (500円)
- 『言語技術教育 第26号』特集 言語技術が見える授業づくり—「ごんぎつね」「天気を予想する」
で身につけさせる言語技術— (500円)

Ⅲ 日本言語技術教育学会 第28回大会(静岡大会)について

開催日時：2018年6月30日(土) 9:00~16:25

開催場所：常葉大学瀬名キャンパス(静岡市葵区瀬名1-22-1)

1 参加申し込み方法、懇親会など

(1) 第28回大会(静岡大会)では【事前の参加申込】は致しません。当日、受付にて下記の参加費をお支払い下さい

会員4,000円、非会員4,500円、学生2,000円。 懇親会4,000円。

(2) 葉書として送付した「会員証」を、学会当日にお持ちいただき、受付でご提出ください。

受付では氏名・住所・会員か否か等の記載・確認をいたします。

(3) 座席は先着順です。受付で案内します。必ず受付を通ってください

(4) お問い合わせは学会事務局長 (開田晃央) まで(下記メールのみ)。

E-mail kouheiwaka@gmail.com

Ⅳ 理事会の日程

・日時 2018年6月30日(土) 12:00~13:00(学会当日)

・場所 常葉大学瀬名キャンパス内(場所未定)

※ ご欠席される理事の方は、議事の審議・承認について議長にご一任いただきますよう、よろしくお願いいたします。

Ⅴ 新規会員の申し込みについて

現在の日本言語技術教育学会員数は、630名程度となっております。本学会の特色は、研究者も現場の教員も社会人も、皆が同じ土俵に立って自由に意見を交換できることにあります。また、常に社会の要請をいち早く察知し、今日的なテーマ設定および提案をしております。

このような本学会に、ぜひまわりの方々を会員にお誘いください。

入会は、下記の口座に3,000円を振り込んでいただければすべて完了します。

年会費制ではないので、一回振り込むだけです。(電信振込はお避けください。)

事務局変更に伴い、「銀行及び口座番号」が新しくなりました。お気を付けください。

「筑波銀行見和支店」 店番号104

口座番号： 1035206

※ 学会会場の受付でも入会手続きが可能です。

Ⅵ 学会ホームページ

学会のホームページは以下のとおりです。ご活用ください。

日本言語技術教育学会ホームページ
<http://nggkg.net/>